



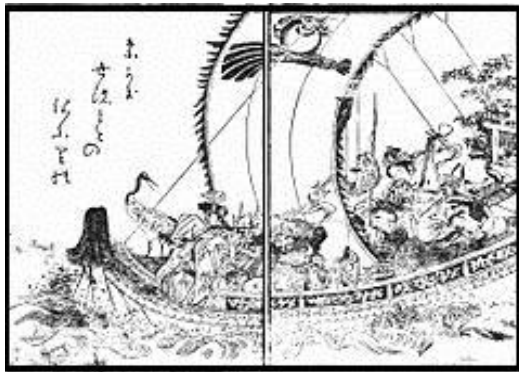
図書館だより

宮城県泉松陵高等学校 図書委員会 平成28年1月8日発行

皆さん初夢はみましたか？



広辞苑によると初夢とは「元旦の夜に見る夢 または正月2日の夜に見る夢」となっています。室町時代には宝舟の絵を枕の下に入れて寝ると縁起の良い夢が見られるという風習もありました。



← 宝舟の絵の一例です。

永き世の遠の眠りのみな目ざめ

波乗り舟の音のよきかな

という歌が書かれてあります。実はこれは回文になっており、後から読んでも同じです。

鳥山石燕 『百鬼徒然袋』より

さて、今回図書館から紹介するのは夢に関連した本です。

『幸運を引き寄せる 夢占い大事典』は夢に出てきた印象的なモノや行動などを調べる本です。例えば「試験 テスト」の夢は今の生活や人生設計を見つめなおしたほうがよいという暗示だそうです。



もっと本格的に自分の夢を調べてみたいという人には心理学関連の書籍をお薦めします。

夢といえば、フロイトの『夢判断』が有名ですが、長い本ですし、概要を知るためであれば『まんがで読破 精神分析入門 夢判断』などいかがでしょうか。心理学に興味がある人でしたら東山紘久著の『夢分析初歩』もよろしいかと。



『マンガでわかる心理学』では夢だけでなく、「三日坊主が続けられない理由」「文字がわかる自分の性格」など興味をひく項目を短く簡潔に説明しています。

夢の項目のところでは一般的によくみる夢をピックアップし、解釈を示しています。

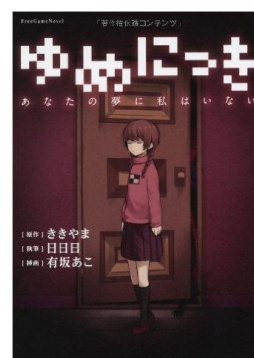
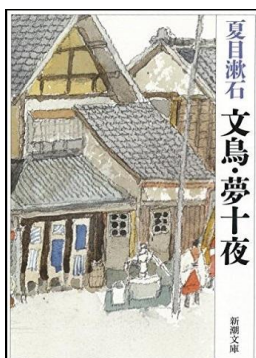
例えば「トイレを探す夢」は「自分の思ったことを言えないで心にため込んでいる」状況と解釈しています。この解釈あってませんか？

変わった夢を見るとなんとなく気になって、メモしている人もいないのでしょうか？ 生涯にわたり自分の夢を記録していた人もいます。

明恵という鎌倉時代の僧はそれを『夢記』として書き残しました。臨床心理学者河合隼雄はそこから「夢の読み方」「夢と自己実現の関係」を実証的に説いた『明恵 夢を生きる』という本を書いています。

さて、夢というのは小説や絵画・映画の題材にもされますね。みなさんご存じの明治の文豪 夏目漱石も『夢十夜』という短編を書いています。夢の中のなんととも言えない不条理にぞくりとさせられます。映画にも『夢』という作品があります。作ったのは海外でもとても評価が高い映画監督・黒沢明氏。当図書館にはこの映画のための黒沢明氏の絵コンテ集『夢』があります。これは氏の晩年の作品なのですが、色彩の圧倒的な迫力はその年齢を感じさせません。

「空を飛ぶ夢」は誰でも一度は見ている夢ではないでしょうか？このモチーフをよく使う画家が、みなさんご存じとは思いますがシャガールです。恋人たちが寄り添ってあるいはキスをしながら空を浮遊している絵というのだいたいの人がわかると思います。夢の解釈を読んでからシャガールの絵や夢十夜などの話を読み返してみたらなにか発見があるかもしれませんね。



これは、小説ですね。
ゲームのノバライズです。

初夢～みなさんはどんな夢をみたのでしょうか？